

神戸大と開発、細菌除去装置

来春、病院などに販売

石社 明小 戸小 神中

神戸市、兵庫県明石市、西宮市などの中小企業六社が神戸大学医学部と共同で開発した、空気中の細菌を除去する装置を商品化する。二〇〇六年四月にも共同出資会社を設立し、病院や検疫所への販売を始める。一〇年三月末までに二十億円の売上高を目指す。

商品化するのは「細菌・ウィルス瞬間加熱殺滅装置」。高さ一・五メートル、幅〇・六メートル程度の箱型の装置で部屋の壁などに取り付け使用。北斗電子工業(西宮市)、森合精機(明石市)、明花電業

(神戸市)など六社が電子部品の製造組み立て、販売などを担う。神戸大学医学部の片岡正助教がシステム開発を支援し、今後の殺菌能力の検査などにも協力する。

空気中をセ氏二百―二百五十度で加熱した後、酸化ラジカルと呼ぶ殺菌能力を持った物質を照射することで細菌などを除去する。一分間に一立方メートルの空気を処理し、百億個

新連携支援に 県内3件選定

近畿経済産業局

近畿経済産業局はこのほど異分野の中小企業連携を後押しする「新連携支援」に、兵庫県中小企業家同友会の会員企業有志による共同開発・受注グループ「アドック神戸」(神戸市)の殺菌装置開発など県内から三件を選んだ。事業化・市場化支援として最高三千万円を助成する。

神戸新聞

2005年(平成17年)9月27日

「アドック」が取り組むのは、二百度の高熱と殺菌効果のある高濃度酸素イオンで細菌やウィルスを死滅させる装置。フィルターで菌を取り除く通常の空気清浄機と異なり、ほぼ完全に殺菌できる。すでに試作機は完成し、病院や介護施設などへの販売を目指す。

他の二件は、ニユーフレクス(神戸市)を中核とするプラント健全性監視システムの構築▽広野化学工業(三木市)などによるエレクトロニクス部材の開発・事業化。